

【課題1】データ結果における「実践していない」と、「学校教育に実践の必要性はある」という意識の乖離を検証する。

【解決策】この落差をどう解決するか、具体性と実行性を速やかに検討する。

【課題2】「宮良長包を良く知らない」の回答は、幼稚園35件(17.5%)で2位、小学校17件(10.2%)の4位であり、「長包音楽」の実践に世代継承がなされていない実態が浮き彫りになっている。

【解決策】学校教育で実践できる方策の検討が必要だろう。例えば、講習会や研究会、学習会を開催することや、沖縄県や行政を巻き込んで副教材の作成を行う。

【課題3】幼稚園では、「幼稚園児の年齢で歌うには旋律が難しく音域が広い」「幼稚園児には難しい」「幼稚園児の発達段階にはレベルが高いのではないか」「幼稚園児の発達段階には少し早い」等、「宮良長包音楽」が教材として幼児の発達段階に難しいという回答がある。小学校では、「どのように取り扱うか教材研究不足」等があった。

【解決策】具志頭幼稚園の事例のように、「汗水節」をBGMに活用し清掃を実践しており、まず「長包音楽」を「聴かせる」活動から始めたらどうか。
また、幼児や小学生向けの「宮良長包音楽副教材」の必要性が求められている。筆者は、子どもに親しみやすい「牛」と「すみれ」の楽曲についてすでに教材化を試みている。^(註19)

【課題4】「長包音楽」の音楽的評価は、「郷土愛のアイデンティティー」「音楽の継承性」「美しい旋律は感性を育む」など高いが、実践率が伴わない。

【解決策】「長包音楽」への評価は極めて高いが、実践率を上げるために、実践を阻害する要素を見出し、学校現場から発信できる方法論を検討する。

これまでの調査では幼稚園と小学校では同じ傾向のデータ結果も多いが、「宮良長包音楽」の幼少連携を実践しているところはまだ少ないといえる。まずは、幼稚園、小学校で共有できる「長包音楽」の教材化の実現に向けて取り組むこと、その方法論を具体化することが、今後の幼小連携への可能性を広げる鍵となろう。沖縄県は、公立の小学校と幼稚園が同じ校庭内にある設置が多く、幼少連携には絶好の環境にあるといえるだろう。

また、「幼稚園、保育園、小学校で取り入れたら、長包音楽が受入れられ続ける」という回答もあり^(註20)、幼児教育を基盤に初等教育へと連続的な実践を行うことが重要であり、さらには、中学校、高校へと発展的につながっていくという結果がアンケートにも顕著に表れている。

それは、幼稚園、小学校においては「宮良長包音楽」が基礎的体験となり、中学校、高校では、「長包音楽」の多様性や音楽的豊かさにつながっているといえるのではないだろうか。

【表1】有効回答

	幼稚園	小学校
対象件数	278	279
有効回答数	153	119
回答率	55.0%	42.7%

【表2】「宮良長包音楽」の実践率

授業・保育での実践	幼稚園	小学校	中学校	高校
取り入れている	44	45	31	19
(取り入れている割合)	28.8%	37.8%	44.9%	70.4%
定時(設定保育)	12	5	1	6
不定時(随時)	30 (68.2%)	37 (82.2%)	27	13
内容の記載なし	2	3	3	0
取り入れていない	109	71	38	8
(取り入れていない割合)	71.2%	59.7%	55.1%	29.6%
理由記載あり	105	69	37	7
理由の記載なし	4	2	1	1
記載なし	0	3	0	0
総合計	153	119	69	27

【表3-①】使用教材

幼稚園

*CD 18件 *カセットテープ 13件 *楽譜 11件 *工工四 11件 *パーランクー 1件
*地域人材活用 1件

小学校

*楽譜 19件(合奏用楽譜、ワークシート) *CD 15件 *工工四(三線の楽譜) 6件
*作曲集 4件(大山伸子編『宮良長包作曲全集』2件、『おきなわのうた』1件、『宮良長包
作品集』1件) *本 2件(『にこぼん先生の沖縄メロディー』1件、他1件)
*歌詞カード 2件(教室掲示用含む) *テキスト 1件(プリント配布)

【表3-②】使用曲名

幼稚園

*「安里屋ユンタ」27件 *「えんどうの花」16件 *「汗水節」4件 *「唐船」2件
*「鶯の鳥」1件 *「おだかこだか」1件 *「牛」1件

小学校

*「えんどうの花」33件 *「安里屋ユンタ」23件 *「汗水節」6件 *「鳩間節」2件
*「発音唱歌」1件 *「琉球木遣歌」1件 *「なんとた浜」1件 *「綾雲」1件
*「山の子守唄」1件 *「校歌(西表小中校)」1件 *「大鷹子鷹」1件

【表3-③】使用楽器

<p>幼稚園</p> <p>＜保育者使用＞</p> <p>*ピアノ14件 *CD3件 *三線3件 *パーランクー3件</p> <p>＜園児使用＞</p> <p>*パーランクー12件 *メロディオン2件 *鈴1件 *タンバリン1件 *ピアノ1件</p> <p>*シンセサイザー1件 *マリンバ1件 *三線1件</p> <p>小学校</p> <p>＜教師使用＞</p> <p>*ピアノ27件 *三線8件 *CD3件 *キーボード1件 *リコーダー1件</p> <p>*パーランクー1件</p> <p>＜学習者使用＞</p> <p>*三線10件 *リコーダー8件 *ピアノ4件 *パーランクー3件 *歌唱3件</p> <p>*オルガン2件 *木琴2件 *鉄琴2件 *大太鼓2件 *小太鼓1件</p> <p>*締め太鼓1件 *キーボード1件 *鍵盤はハーモニカ *ポンポン1件</p>
--

【表3-④】保育(授業)内容

<p>幼稚園</p> <p>*「安里屋ユンタ」を踊り13件、パーランクー16件、エイサー11件、リトミック1件、</p> <p>*「南風原ユンタ」に替え歌1件</p> <p>*「えんどうの花」を歌唱指導11件、BGM3件</p> <p>*「汗水節」を踊り2件、歌唱指導1件、群読1件、BGM1件</p> <p>*「鶯の鳥」1件 *「唐船」エイサー1件 *「牛」1件</p> <p>小学校</p> <p>*「えんどうの花」を歌唱指導29件(合唱指導、斉唱指導)、合奏指導4件、リコーダー指導1件、鑑賞指導1件、学芸会の劇の幕間に合奏1件、三線と器楽合奏1件、金管の伴奏やピアノ伴奏1件</p> <p>*「安里屋ユンタ」を歌唱指導6件、三線指導(リコーダー、歌唱)6件、合奏指導2件、エイサー指導2件、鼓笛隊指導1件、*「宮良長包の生涯について」5件</p> <p>*「汗水節」を劇指導1件、歌詞指導1件、歌唱指導1件</p> <p>*「鶯の鳥」を合唱指導1件、鑑賞指導1件、音読指導1件(全校)</p> <p>*「鳩間節」を踊り指導1件、リコーダーとヴァイオリン指導1件 *「なんと浜」を鑑賞指導2件 *「大鷹子鷹」合唱指導1件 *「山の子守唄」歌唱指導1件</p> <p>*「琉球木遣歌」合唱指導1件 *「発音唱歌」合唱指導 *「校歌」1件(頻繁に歌う)</p> <p>*授業の単元で指導5件 ①5年「日本の歌曲」で山田耕筰、滝廉太郎と同格に宮良長包を取り上げている。②4年はクロス学習として安里屋ユンタを歌う。③音楽の授業で郷土の音楽(4年)で汗水節を歌って聞かせ歌わせた ④5年「日本の歌曲」の題材、5年「日本の歌曲」の題材、⑤4年社会科とクロス「安里屋ユンタ」</p> <p>*その他の指導3件 ①年間行事に宮良長包集会を位置付け長包メロディーを地域の方(音楽活動している方)に演奏してもらいながら長包についてのお話を高学年が発表。②石垣島出身であることを伝える ③沖縄県出身の作曲家であることの紹介もかねて行う</p>
